

輝け 21のスマイル 心をひとつに！ 感動をみんなに!!

校長 徳永 由美子

11月7日日曜日、久志校文化祭を開催しました。今年度も、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から縮小した形での実施でしたが、心をひとつにした久志っ子21人の輝くスマイルで、感動をお届けできたのではないかと思います。

地域の皆様の素晴らしい作品や、子どもたちの毎日の学習の成果である作品が展示された体育館で、小中それぞれの合奏、中学生の英語スピーチや弁論がありました。そして、全校児童生徒で久志っ子ソーラン、島口劇「島ぬ宝」を発表しました。その一つ一つに一人一人の成長を感じ…ただただ幸せで胸がいっぱいになりました。

御参列いただきました村当局、村教育委員会をはじめ来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。感染防止対策をしながら、みんな、今できる最高の文化祭を創り上げることができたと思います。心より感謝申し上げます。

【一人一人が主人公 きらり輝け 久志っ子】

これからも、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

小した形での開催となりました。しかしながら、昨年度よりも来校者が増え、有意義な県民週間になりました。地域や保護者の方々からの御感想を一部御紹介します。

【文化祭】

- ・ 島口劇で胸が詰まった。下級生を助ける上級生に久志の心を見ました。
- ・ 感動しました！みんなが力を合わせてがんばった発表！みんなイキイキしていました。これからも勉強スポーツといろいろなことに全力で頑張ってほしい。
- ・ すごい感動。小中学生の皆さん、先生方、保護者、じいちゃん、ばあちゃん、一般の皆さん、来校の皆さん、一堂に和、結いの現れ。今日のほうらしゃや、いつもより感じました。いついつまでもこのつながりを大切にしてください。

【授業参観】

- ・ 普段とは違う子どもたちの姿を見ることができて、みんなすごくかっこよかったです。考える姿、みんなで話し合っって答えを出すところ、学校で過ごした時間を大切にしてほしいです。
- ・ 久志校に来るといつもあったかい雰囲気を先生、子どもたち学校全体から感じます。子どもと先生とのかわりもすてき！！勉強も意欲的な様子が子どもたちから感じられました。子どもたちが学校大好き、先生大好きが伝わってくるのもうれしいです。ありがとう！
- ・ それぞれのクラスでもいつもと違い真剣な姿、よく話（授業）を聴き、解いていました。低学年と高学年複式もスムーズそうでした。タブレットも利用している様子が見られました。こういう時間が大切ですね。



人権教室11/13



■11月13日(土)に人権教室が行われました。今年度も村人権擁護委員の幸い子さんと津田政俊さんが来校してくださいました。■小学1年生から4年生までの人権学習では、「さるかに合戦」の動画を視聴しました。いじめは絶対許さないというねらいから、いじめの側といじめられる側の気持ちを考えながらよりよく生活しようとする態度を育てる内容でした。■小学5・6年生と中学2・3年生の人権学習では、「外国人との共生社会」について学習しました。外国人に対する差別や



みんなで「久志っ子ソーラン」踊る
中学生、堂々と英語スピーチ

「輝け 21のスマイル 心をひとつに!!」をテーマに、宇検村立久志小中学校の児童生徒が、文化祭のメインイベントとして、久志っ子ソーランを披露しました。堂々と英語スピーチを行いました。

久志小中文化祭

「さるかに合戦」をテーマにした、久志小中文化祭のメインイベントとして、久志っ子ソーランを披露しました。堂々と英語スピーチを行いました。




為(す)ろうち思(お)い 為(す)らん物(ぶ)んや無(お)ん
やっやれないことはない！まずは、実行あるのみ!! 失敗を恐れず、挑戦することが大事なんです。

地域が育む「かごしまの教育」県民週間 ＝アンケートより＝

■11月1日から11月7日まで、地域が育む「かごしまの教育」県民週間として、学校の教育活動を地域や保護者の皆様に参観していただきました。今年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためふれあい給食は中止、文化祭は時間と内容を縮

偏見の心に気付いたり、役割演技を通してよりよいコミュニケーションのとり方を実践したりして、共生する大切さを学ぶ内容でした。■人権擁護委員の幸さんと津田さんは、「子どもたちがいろんな視点で人権を考えることができるのがすばらしい。」

「久志っ子人権宣言を考えて実践している久志っ子はすばらしい。」と褒めてくださいました。今後も学校生活の中で、自分も友達も大切にできる強くて優しい久志っ子をめざして、みんなでがんばっていきましょうと思います。

【子どもたちの感想】

【河添 杏南さん】

けんかをしたらけがとかいろいろします。だからわたしは、けんかはいやです。

【楠田 愛依さん】

いじめは人を傷つけて痛い思いをさせることなのでだめだと分かりました。

【下菌 紬さん】

おさるさんが弱い者いじめをずっとしていたからおさるさんが最後に仲良くなってほしかったです。

【保池 威風さん】

お兄ちゃんといつもけんかをするけれどけんかをしたらけがをするからけんかをなくしたいです。

【保池 羽蘭さん】

最初は、人権って何だろうと思いましたが、さるかに合戦を見て、すぐいじめはだめということが分かりました。

【植田 文大さん】

今日は「人権」ということが分かりました。けんかをしたくないようにしたいです。

【脇田 埜垂さん】

いじめはしてはいけないことだとよく分かりました。みんなと仲良くしたいです。

【福山 音次朗さん】

なぜ、さみしいからみんなをいじめていいの？と思いました。これからいじめをなくしたいです。

【保池 洸志さん】

ぼくは、差別する心をなぜ人々もっているのだろうと思いました。

【植田 百音さん】

人権には、「人を大切に作る心」「いじめをしない」「人を大切に作る」「人を大切に思う」「差別をしない」という答えがたくさんあると思います。

【植田 大和さん】

人権は、誰もが当たり前にもっているものといっていました。それが人権なのだと思いました。

【保池 凜奈さん】

人権は守らないといけないこと。大切にしないといけないこと。自分や友だちの人権を守りたいし大切にしたいです。

【脇田 結吏さん】

「自分がされていやなことをしてはいけない。」と何度も聞きました。された人の立場になって考えるとすごくいやな気持ちになってしまいます。

【保池 一鷹さん】

これからすぐ悪いと決めつけずにその人たちと同じ目線になって考えることが大事だと思いました。

【保池 鉄心さん】

誤解などがたくさんあってその積み上げが差別につながるのだなと思いました。正しい知識を知りたいです。

【植田 楓大さん】

同じ目線で考えていけば解決できる。考えるだけじゃなくてちゃんと実行したい。

【福山 彩葉さん】

六年生で作った久志っ子人権宣言の中に解決策があっていろんな場面で使えると思った。

【福山 芽衣さん】

久志っ子人権宣言が世界にまで広がればいろいろな人が知って少しは変わると思った。

【植田 心大さん】

わざとじゃないかもしれないから理由をちゃんと聞いて自分の思いを伝えたい。

【脇田 琉輝也さん】

自分の思いを相手に伝えることでその相手とも分かり合えることができるのは大切だと思う。

【福山 悠さん】

いつか自分が外国人に会い話すことがあるかもしれない。その時は落ち着いてゆっくりじっくり時間をかけて仲良くなるのが一番いい方法だと思う。

村英語ショートスピーチ・弁論大会 11/1

■11月16日(火)に、元気の出る館で英語ショートスピーチ・弁論大会が開催されました。■中学2年生の脇田琉輝也さんは

「Nursing」という題目でショートスピーチの部に出場しました。そして、中学2年生の植田心大さんは「スーパーじいちゃん」、中学3年生の福山悠さんは「わんきやぬ宝」という演題で弁論の部に出場しました。この日のために、始業前や昼休みに時間をみつけて自主的に体育館で担



当の今村先生、濱田先生そして、徳永校長先生と練習を重ねてきました。何度も何度も繰り返し練習するのは大変だったと思います。しかし、諦めず、先生方のアドバイスや励ましを受け止めながら大会に向けて最高の状態で出場できたところがすばらしいです。■結果は、英語ショースピーチの部で脇田琉輝也さんが優秀賞、弁論の部では、植田心大さんが最優秀賞となりました。福山悠さんは、3年間の思いが溢れたすばらしい弁論でした。おめでとうございます。■植田心大さんは、12月15日（水）龍郷町体育・文化センターりゅうゆう館で開催される日本復帰記念第36回大島地区中学校弁論・ショートスピーチ大会に宇検村代表で出場します。植田心大さんに出場に向けての意気込みをインタビューしました。



「やるなら全力でがんばります。じいちゃんのすごさとぼくの将来の理想像を伝えたいです。」

尊敬する偉大なるじいちゃん。心大さんの生き方につながる熱い思いがきっと会場を魅了するでしょう。これまで関わってくださったすべての方々に感謝しながら心大さんらしくがんばってほしいですね。■学校だよりの最後に脇田琉輝也さん、植田心大さん、福山悠さん0の作品を掲載しています。力作を御覧ください。

七ヶ宿村からのプレゼント

■11月17日（水）に宇検村と交流事業を行っている宮城県の七ヶ宿村から新米と米粉麺、クッキーが届きました。一人に新米2Kgも大変ありがたいことです。また、炭とヨモギを使った風味のよいクッキーと米粉麺は、宮城県の特産物を活用した食材で大変おいしいです。12月に予定されていた七ヶ宿交流会は、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず、直接会って感謝の気持ちを伝えることはできませんが、宇検村から感謝の気持ちが届くようにありがたく味わいましょう



12月の行事予定



- 3日（金）校内ロードレース大会
合同PTA・学級PTA
- 4日（土）人権週間（～10日）
- 10日（金）北朝鮮人権問題啓発週間（～16日）
- 11日（土）土曜授業 人権集会「拉致問題」学習
もちつき大会
- 24日（金）終業式、大掃除
- 25日（土）奄美群島日本復帰記念の日
- 28日（火）仕事納め
- 31日（金）大晦日

Nursing

Rukiya Wakita

“500 people have the coronavirus today.”

I hear this news many times every day. Do you think being a nurse is worth doing?

Now, nurses in Japan are having a hard time, because they have to take care of many patients. Many of these patients have the coronavirus. They can't escape the pandemic.

When I was two years old, I was seriously sick. My mother called an ambulance for me. She was in a panic. I was given an I.V. During the I.V, the nurse took care of me kindly. She also helped my mother relax.

I watched a TV program about nurses. A male nurse was helping elderly people. I saw a male nurse for the first time.

He was a paramedic. He worked for other peoples' lives more than his own. When I saw him, I thought I wanted to work as a nurse, too. I will learn many things and I want to be a nurse in the future.

※和訳

看護という仕事

「今日の感染者は500人でした」私は、こんなニュースを何度も聞いた。みなさんは看護師はやりがいのある仕事だと思うだろうか。

今、日本の看護師は厳しい状況である。たくさんのコロナ患者を受け入れなければならないからだ。そして、看護師はパンデミックと化したコロナ禍から逃れることはできない。

私は2歳の時、大病を患った。母は救急車を呼んだ。完全にパニック状態である。私は点滴をうってもらった。点滴の間、ひとりの看護師が親切にケアしてくれた。母に対してもまた落ち着かせてくれた。

私は看護師を取り扱ったテレビ番組を見た。男性の看護師が高齢者をケアしていた。男性の看護師を見たのは初めてだった。その看護師は救命救急士だった。自分の命よりも他人の命のために働いていた。この看護師を見た時、私も看護師として働きたいと思った。多くのことを学び、将来は看護師になりたい。



スーパーじいちゃん

宇検村立久志中学校 二年 植田 心大
イノシシの腹に、じいちゃんがナイフを突き刺す。そのナイフが、厚いイノシシの皮を裂いていく。

僕のじいちゃんは、イノシシを捕る名人である。そして、さばくこともできる

「心、シシ捕りに行く？」
そう言われて、何回連れて行ってもらったことだろう。じいちゃんのシシ捕りは、わなで捕る。わなを仕掛けてイノシシを捕るためには、どこにわなを仕掛ければいいのか分かっていなければならない。じいちゃんは、それが分かっているのだ。

「シシ捕りは難しいぞ。」
じいちゃんの口ぐせだ。現に、わなに掛かっていたはずなのに逃げてしまったり、わなに掛かったまま死んでしまったりすることがあるそうだ。それでも、じいちゃん

は、今日もシシを捕って、さばく。

みなさんには、尊敬する人が、いるだろうか。僕は、もちろんじいちゃんだ。僕のじいちゃんは、スーパーじいちゃんなのである。近所の人には、誰でも知っている。じいちゃんは、シシ捕りだけでなく、ハブ捕り、舟の操縦、魚釣り、何でもできる。スポーツだって、卓球にテニス、何でも得意だ。休みの日には、畑仕事だってしている。僕は、じいちゃんにできないことはないんじゃないかなあと、秘かに思っている。

ある日、じいちゃんに聞いてみた。

「じい、いつも笑っているけど、つらいことはないわけ。」

じいちゃんは、いつもと変わらない笑顔で言った。

「心大たち孫がたくさんいるから、毎日がすごく幸せだ。」

僕は、とてもうれしかった。そして、

「僕もじいちゃんといると楽しいよ。」

と言いたかったが、恥ずかしくて言えなかった。でも、きっとじいちゃんには、分かっている。僕が、じいちゃんのことを大好きで、じいちゃんのことを尊敬してらって。

尊敬と言葉では言うけれど、辞書には、他人の人格や行為などを尊び、敬うことと書いてあった。さらに、人格を引いてみると、人柄やパーソナリティーと同じとあった。

じいちゃんの周りには、いつもたくさんの人がいる。それは、じいちゃんがいろいろなことができるからかもしれないが、それだけではないと思う。

いつも元気なじいちゃんは、約束したことは、絶対に守る。信頼されているのだ。つまり、この信頼こそが、じいちゃんの人柄なのだと思う。

でも、そんなじいちゃんにも、たった一つだけ欠点がある。お酒が大好きで、お酒を飲んだら、大きないびきをかきながらぐうぐう寝ているのだ。

人はきっと、完璧だから尊敬されるのではない。たとえ欠点があっても、人から信頼されたり、人のために尽くしたりできるから、人は人を尊敬するのだと思う。

僕は、いつかじいちゃんのような人になりたい。じいちゃんのように、シシ捕りも、舟の操縦も、畑仕事でも何でも、できるようになりたい。そして、じいちゃんのように、たくさんの人に囲まれながら、人から尊敬されるような人になりたい。

これから、僕は、いろいろなことにチャレンジして、たくさんことができるようになる。尊敬するじいちゃんのように……。



わんきやぬ宝

宇検村立久志中学校 三年 福山 悠

まれまれ 見ちゃんどわんな

島ぬ クロウサギぐわよ

森ぬ神に 引きやれいていよ

これは、僕が中学一年生のときに、島唄の「朝花節」の曲に合わせて作った歌詞だ。

「朝花節」は、島唄を歌う席では、必ず歌い始めに歌われる唄である。座を清める唄とも言われ、その内容も挨拶から始まる。

まれまれ なきやうがでい

なまうがめば

いちごろうがむかい

この唄を聞いたことのある人もいないのだろうか。意味は、「久しぶりにあなた方にお会いしました。今お会いしたら、今度はいつ会えるのでしょうか。」と出会えたことを喜び、また会いたいと歌っているのだ。歓迎の唄としても有名である。

僕は、この「朝花節」に、クロウサギを見たときの喜びを込めてみた。

島唄を抜きにして、奄美を語ることはできないと僕は思っている。日々の生活の中に、島唄がどっしりと根付いている。例えば、仕事の唄があり、行事の唄があり、子どもの唄がある。恋の歌もあれば、別れの唄もある。伝説やうわさ話だってある。

唄半学といって教訓的な唄で有名である「ゆしぐとう」は、いろいろな場面で聞いたことがあるはずだ。

「やあなれどう そとうなれ。」

聞いたことはないだろうか。家の中できちんとしていないと外でもきちんとできないよという意味だ。

食事の時には、ひじをつくな。寝転がったままテレビを見るな。感謝の気持ちをもってお礼を伝えなさい。これらはみんな父や母、祖父母に教わったことだ。今、僕ができているとすれば、それは、みんな家族のおかげなのだ。

夏になれば、三味線の音が響き、チヂンが鳴り、みんなが自然と集まってくる。そう、八月踊りの季節だ。どこからともなく、この音色が聞こえてくると、僕はもう我慢ができなくなる。みんなもそうに違いない。だれよりも早く家を飛び出して、チヂンを叩きたい。あの気持ちは一体何だろう。嬉しいともちょっと違う。あの気持ちを味わうたび、ああ、僕もシマンチュなのだと思う。

やがて、唄出しと呼ばれる女唄が始まり、それに男唄が応えて、掛け合いが始まる。

「あなたは、自由自在に島唄を歌うことができますか。」

と聞かれたら、あなたは、何と答えるだろうか。自信を持って、

「はい。」

と答えられる人がいたら、うらやましい限りである。残念ながら僕は、歌えない。小さい頃からあんなに聞いている島唄なのに、何度も口ずさんでいる島唄なのに、自由に歌うことができないのはくやしい。

今僕は、音楽の授業で、「いきゅんにやかな節」と

「ワイド節」を練習している。「いきゅんなかな節」は歌うことはできるが、三味線を弾きながらどうまく歌えない。大苦戦だ。当たり前だが、三味線は、音階ではなく、一から九までの指の形を覚えて弾いていく。

僕は島唄を歌いたい。チヂンを叩きたい。次の世代の人たちに、伝えていきたい。それは、島唄が、島の宝だからだ。

先人たちが僕たちに残してくれた宝。島唄には、先人たちが生きた時代の、彼らの想いがあふれている。

みなさんも、僕と一緒に、島の宝を伝えていくすべを考えてみませんか。